

ガット弦を張ったチェロで弾く、オーガニック(有機的)な音楽

バロックとモダンのスタイルに調整し、ガット弦を張った2台のチェロと様々な形の弓を使い分け、17世紀から現代に至る無伴奏作品をご紹介するリサイタルシリーズ。第3回は、前半に18、19世紀のチェロ奏者が書いたカプリス、後半はスコルダトゥーラ(変則調弦)を使った作品——J. S. バッハの無伴奏組曲第5番と、アルゼンチン出身で京都在住の作曲家パブロ・エスカンデ氏に委嘱した「白い馬のフィドル」——をお届けします。

ガット弦は20世紀の初めまでごく一般的に使用されていました。第一次世界大戦以来、広く使われるようになったスチール弦に対し、天然素材であるガット弦は倍音成分を多く含み、自然界の音のように陰影に奥行きがあり、人が話す言葉のように抑揚や凹凸のある表現が可能です。近代以降、音楽はより大きな音と均一性を求めて発展しましたが、今私たちが必要としているのは、有機的なもの、生命あるものに触れることではないでしょうか。

今回はヒストリカルな製法で作られたガット弦を使うことにより、特にバロック時代の「言葉を喋る」音楽を味わうことのできる演奏、そしてお一人一人の心に届く音を追求したいと思います。

地球上のいたるところで環境破壊や戦争が続く現在。音楽によって、生きる希望を取り戻せますように。



富田牧子 Makiko Tomita Kida, Cellist

バロックと現代のスタイルの楽器にガット(羊腸)弦を張り、楽曲に合わせて持ち替えながら、自然体の音楽と室内楽の楽しさを広める活動をしている。東京芸術大学在学中にリサイタルを行い、演奏活動を始める。同学大学院修士課程修了後ハンガリーのリスト音楽院に留学、ヨーロッパ各地の音楽祭や講習会でソロと室内楽の研鑽を積む。ORF(オーストリア放送)、NHK-FM「名曲リサイタル」の公開録音に出演。弦楽四重奏団メンバーとしての活動を経て、現在はフリーの音楽家としてソロリサイタル、様々な楽器奏者との組み合わせによる「充実した内容の音楽を間近で味わうコンサート」の企画/演奏を各地で継続。2017年コスマス・カピツァ(パーカッション)とのデュオ《羊とヤギ》でCD「O Terra (大地よ)」を発売。2023年に京都でバロック音楽コンサートシリーズを開始。身体と演奏の繋がりを探り、耳を澄ませて楽器の音を引き出すレッスンを東京、横浜、京都、長野で行っている。

同仁キリスト教会 (文京区目白台3丁目10-9)
Dojin Christian Church 3-10-9 Mejirodai, Bunkyo, Tokyo

会場までのアクセス

- ・東京メトロ有楽町線 護国寺駅 6番出口 徒歩7分 (急な上り坂あり)
- ・JR目白駅から都営バス「新宿西口行き(白61)」「椿山荘行き」 目白台三丁目 下車徒歩5分

